

⑩ 直江津区

凡 例	
◎ 市役所	津波災害警戒区域
■ 居住誘導区域	内水被害警戒箇所
■ 都市機能誘導区域	土砂災害警戒区域
■ 誘導重点区域	土砂災害特別警戒区域
■ 地域自治区	なだれ危険箇所
人口分布 250mメッシュ	垂直避難可能
R2年 総人口密度	垂直避難施設
40人/ha以上	水害緊急避難場所
洪水浸水想定区域	土砂災害緊急避難場所
5.0m以上	津波緊急避難場所
3.0m以上～5.0m未満	
0.5m以上～3.0m未満	
0.5m未満	
家屋倒壊等氾濫想定区域	
河川侵食	
氾濫流	

図中番号凡例

- ①-1 洪水災害(計画規模)
- ①-2 洪水災害(想定最大規模)
- ①-3 多段階浸水被害(降雨確率)
- ② 土砂災害
- ③ 津波災害
- ④ ため池災害
- ⑤ 内水災害
- ⑥ なだれ災害

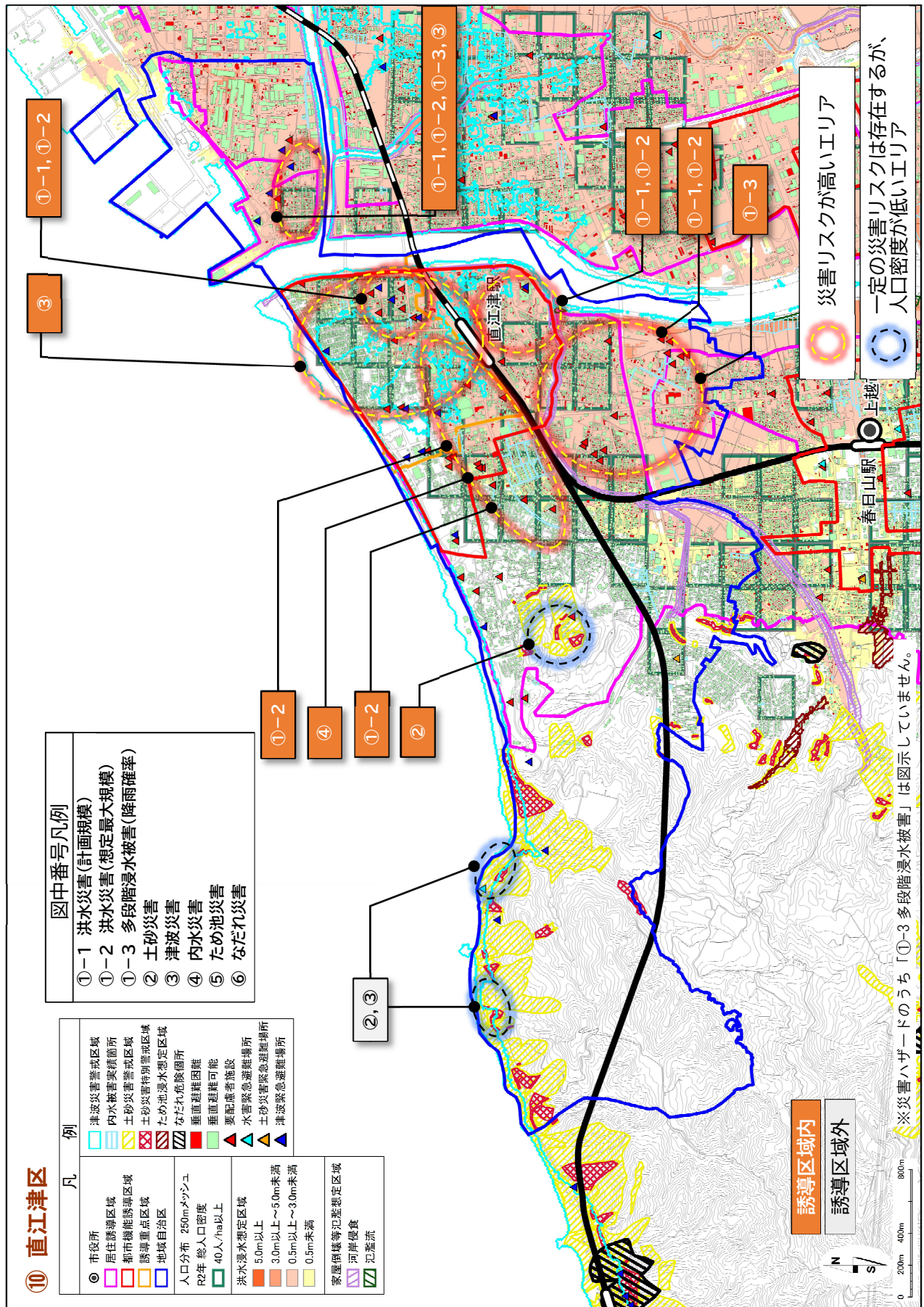


表 災害リスクの整理 (⑩直江津区)

災害ハザード	災害リスク	含まれる 誘導区域(*)			
		居	都	重	外
①ー1 洪水災害 (計画規模)	直江津駅南側、北出張所周辺及び直江津港周辺において洪水による浸水被害のおそれがあり、かつ人口密度、高齢者人口割合が高く、さらに垂直避難が困難なエリアが見られ、エリア内に要配慮者施設が多数立地しており災害リスクが高い。	●	●	●	—
①ー2 洪水災害 (想定最大規模)	上記計画規模と同様のエリアに加え、直江津駅北側エリアにおいても、浸水深が0.5m以上～3.0m未満に該当し、かつ人口密度や高齢者人口割合が高く、垂直避難が困難なエリアがあり災害リスクが高い。	●	●	●	—
①ー3 多段階 浸水被害 (降雨確率)	保倉川と関川の合流部や区南部の関川沿いにおいて、現況から中長期にかけて中頻度以上で浸水深0.5m以上の浸水想定区域が見られ、高齢者人口割合が高く、かつ要配慮者施設の立地も見られることから災害リスクが高い。 浸水深3.0m以上となる中低頻度以上の災害リスクは区内には見当たらない。	●	●	—	—
② 土砂災害	区中央部や西部沿岸部の山際において、土砂災害警戒区域が指定され、かつ高齢者人口割合が高いエリアがあり災害リスクが存在する。	●	—	—	●
③ 津波災害	直江津駅北側、直江津港周辺及び日本海沿岸部において広く津波災害警戒区域が指定されており、特に直江津駅北側と直江津港周辺においては高齢者人口割合が高くなっており災害リスクが高い。	●	●	●	●
④ 内水災害	市街地内において内水浸水実績箇所と高齢者人口割合が高いエリアとの重複が見られる箇所については災害リスクが比較的高い。	●	●	●	—
⑤ ため池災害	災害リスクは存在しない。	—	—	—	—
⑥ なだれ災害	災害リスクは存在しない。	—	—	—	—

(*) 居:居住誘導区域、都:都市機能誘導区域、重:誘導重点区域、外:誘導区域外、—:該当なし

【居住誘導区域内の災害リスクについて】

居住誘導区域内において、各種災害ハザードと人口密度、高齢者人口割合が高いエリア及び垂直避難困難のエリアがあり災害リスクが高い。